議会だより Vol.9

伊那市議会事務局
TEL0265-96-8149
FAX0265-76-9117
E-mail gkj@inacity.jp

環境・エネルギー問題特別委員会報告
電気は人の力でおこす

委員長　若林敏明　副委員長　柳川広美
委　員　中山彰博　唐澤　稔　飯島　進　竹中則子

3・11を教訓に

伊那市議会では、2011年3月11日の大震災と未だ除染のめどが立たない東京電力福島第一原発事故を踏まえ、同年6月議会において、浜岡原発の即時停止と、再生可能な新エネルギーの確保により段階的に原子力発電から撤退することを求める意見書を国に提出しました。

一方、市民には節電を呼びかけ、議会には再生可能エネルギーの地産地消を推進する目的で当委員会を設置しました。

当委員会では、最も当市の地勢的、気象的条件のよい小水力に着目して調査研究を行っています。今年3月には当市研究プロジェクトが、小水力発電の適地は必ずしも多くなく、採算面からも厳しいとの分析結果を報告していますが、昨年7月の国の再生可能エネルギー固定価格買い取り制度の導入、加えて長野県の積極的な取り組みにより、事業化の可能性が生まれてきました。

有力な農業水路で実現

①富県桜井伝兵衛井水落差溝については、春富土地改良区が事業化に向けて手続き中です。〈写真は下段右〉

伝兵衛井水の落差溝

②長谷美和一貫水路についても、農山漁村再生可能エネルギー導入推進事業を活用した概略設計が6月議会補正予算で決まりました。

③高遠ダムの維持放水の活用は、県企業局が平成27年に発電事業着工の予定です

先進地視察報告から

◇NPO法人「やすらぎの里いとしろ」（岐阜県郡上市）

過疎の小集落が「三十年後も小学校を残そう」を合い言葉に地域づくりに取り組み、その一環として小水力発電所を自力で完成。全国から視察者が多く、昼には地元婦人部が山菜御膳を出し、土産には自前の電力を活用した乾燥とうもろこしを販売しています。

久保田理事長さんから説明を受ける

◇白水（しらみず）の力（岐阜県白川村）

関西電力の発電所の放流水を活用し再度発電して、村の温泉施設で活用しています。

◇下林発電施設（石川県野々市市）

県立大学と県の連携により実現した低コスト・短期施工の実証プラントで、市に譲与され、環境教育面で活用されています。

◇小早月発電所（富山県魚津市）

民間小企業が市民出資のおひさまファンド（飯田市）を活用し5億円を調達。小水力発電を事業化しています。

全国初の市民出資による小水力発電所

目的をはっきり持つ

小水力発電を推進するには、発電事業の目的をはっきり持つことが最も重要となります。

地域おこしに軸足があれば、まずはやってみるべきでしょう。売電が目的なら採算面の見通しが大事です。民間事業者の参入もあり得ますし、市民ファンドによる資金調達も一考です。

人と人の連携が力に

先進地視察で最も感じるのは人と人との連携こそが成功の鍵である点です。

そこに暮す住民の理解や協力・発電事業に精通したNPOなどの参画・電力会社の協力・地域の大学との連携・電気技術者の参画・投資家（市民ファンド）の存在、すべてがそろっていなければ進まないのではなく、補い合うことが大事です。行政にはこの連携を生み出すパイプ役として、必要な情報や場の提供、力不足を補う知恵と行動力（協働）が求められています。そして、同時に市民の皆さんの出番でもあります。

●尚、新エネルギーに関するお問い合わせは、伊那市自然エネルギー推進室（生活環境課内）へ